

(課題名) Hood technique RARPの術後尿禁制および尿流動態検査上の検討

本調査研究の概要を以下に示します。【対象】に該当すると思われる方で、本調査研究に関するお問い合わせや調査の対象となることを希望されない場合は、担当医にお申し出ください。

【本調査研究の目的】

限局性前立腺癌に対するロボット支援下前立腺全摘術（RARP）は確立された外科治療であり、周術期成績や合併症については従来の手術法と比較して良好な成績が認められます。しかしながら、術後の尿失禁は一定頻度で起こりうる合併症であり、手術を受けられた方の生活の質を損なう要因になります。

近年、前立腺および膀胱周囲の構造をなるべく温存するHood technique RARP（H-RARP）が開発され、術後の尿禁制の改善が報告されています。当科でも積極的にH-RARPを施行しており、制癌効果を損なうことなく、術後の尿禁制の確保をすることが期待されています。今回、H-RARPによる周術期成績、術後尿禁制および術前後の尿流動態上の結果について、後方視的に検討いたします。2020年11月から2023年8月までに当院で本術式を導入した症例と、同一術者が2019年11月から2020年11月までに施行した従来法RARP症例と比較して周術期成績および術後尿禁制、術前後の尿流動態上のパラメーターを検討し、H-RARPの有用性を検討する。

【対象】

H-RARPを施行された症例と従来法のRARPを施行された症例において、周術期成績、尿禁制率、尿流動態検査上の結果について比較検討します。

なお、必要な情報のみを統計資料として集計しますので、患者さんのお名前など個人を特定できる情報が明らかになることはありませんので、ご安心ください。

【研究期間】

承認日から2023年12月31日

(調査状況により調査期間を延長する可能性があります)

【研究機関・組織】

研究責任者

田中智章 腎臓泌尿器科

地方独立行政法人市立吹田市民病院 腎臓泌尿器科

〒564-8567吹田市岸部新町5番7号

TEL : 06-6387-3311 (代表)

FAX : 06-6380-5825 (代表)